

小さな甘さの冒険：小玉スイカ栽培

—鞍つき栽培と普通栽培の比較—

メンバー 西澤雅彦、塩谷純一、亀岡恭子、登房子、服部満陸子、長瀬幸子、松林秀幸

【テーマ選定】；いかに甘いスイカを栽培するかに目標をしぼって、「小玉スイカ栽培」に挑戦した。はじめての小玉スイカ栽培のため「小さな甘さの冒険：小玉スイカ栽培」とした。

【研究方法】；鞍つき栽培法（スイカの原産地の環境にできるだけ近づけた方法）と普通栽培法（地這い栽培法）の2つの試験畝を作り、各試験畝に各自で播種育苗した実生苗3株を定植し、両方の比較より鞍つき栽培法の甘さの検証を行う。

【評価項目】；2法より収穫したスイカの個数、糖度、重量、食味評価を比較した。

【結果及び考察】；結果については、排水と保湿を考慮した「鞍つき栽培」の収穫個数8個、糖度が平均12.8度、「普通栽培」の収穫個数7個、糖度が平均11.5度と「鞍つき栽培」の方が高い糖度が得られた。重量については、「普通栽培」平均4.4kgが「鞍つき栽培」3.8kgに比較して上回った。食味アンケート（のべ135人）は、両者とも良好な甘さ、シャリ感が評価された。とくに授業の料理実習で全員に食していただき、高い評価を得たことは、感激です。野菜栽培のなかで比較的栽培が難しいと言われている「スイカ栽培」について事前にスイカの特性を学習すると、発芽適温、育成適温、摘心、人工授粉等はじめてのことばかりでした。各個人ごとに項目をきめて準備を始めました。まずは播種からです。発芽適温が25°C前後と4月の環境では自然発芽は無理なところからのスタートでした。生育に合わせた色々の対策を講じた結果甘いスイカの収穫に成功したと自負しています。この栽培レポートを一読していただけると、困難を克服した経緯をご理解いただけるとともに「スイカ育成のマニュアル」にもなるかと思っています。困難なスイカ栽培を通じて2班全員で達成感を感じているところです。